金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

髭は自由人の象徴？男のロマン？

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」編集長・真鍋康利さん

先日同窓会があり、旭川や別海など道内各地はもとより東京など本州各地から卒業年次の近い仲間が札幌に集まりました。総勢27人、最も遠方は奈良からの参加です。毎年の開催ですが、初めて参加する仲間もいて、そこここで昔話に花が咲き、一気に半世紀近くの若い頃に戻りました。

○　○　○

皆、一線を退く年齢で、各人がそれぞれの道を優雅に、または苦労しながら過ごしているようです。見渡すと頭の様子に大きな変化があります。薄くなった人、まったくなくなってしまった人、真っ白になった人、それぞれの人生が垣間見えるようです。

昔、立派な口髭がトレードマークだった友人が初めて参加しました。私は別の機会に会っていたので違和感はなかったのですが、「あれは誰？」という声が聞こえてきました。彼は卒業後、自慢の髭をそり落としたので、まったく顔が違って見えたのです。

女性陣は毎日、肌のお手入れやお化粧が大変なようですが、実はおっちゃんもこの髭の手入れが結構面倒なのです。朝そっても夕方にはぞりぞりとした感触になり、白髪が交じってきたりするとそこが光って見え、どうも疲れた感じになってしまいます。

先日、ある方が「最近シニアが髭を伸ばしているのをよく見るが、定年を迎え、いかにも自由になったと主張しているようで気にくわない」とお怒りでした。彼は「私は長い会社勤めの間、周りの迫害や中傷にめげず髭を伸ばし続けてきた」と言います。筋金入りの髭の人から見ると、薄っぺらい流行のようで許しがたいのでしょう。

○　○　○

確かに髭は自由人の象徴のように見えます。知人の画家は、あご鬚と口髭が特徴で、ちょっと薄くなった白髪交じりの長めの髪を後ろで縛っています。よく似た風貌の人を3人知っていますが、皆さん立派な作品を世に出し続けているのを見ると、髭のおかげかとも思ってしまいます。

紙幣でも、これまで夏目漱石、新渡戸稲造、野口英世など髭の立派な方の肖像画が使われてきました。これは髭の部分が複雑なデザインにできるため偽造しにくかった、というのが理由だそうです。現在は技術の進歩によりその基準はなくなり、新千円札の北里柴三郎にはありますが、かつて伊藤博文に負けたとされる渋沢栄一にも、もちろん津田梅子にも、髭はありません。髭のあることが紙幣になるほどに出世する条件というのは間違いです。

髭は男のロマンのようにも感じます。しかし、チリチリした髭を孫に擦り付けると嫌がられること間違いなしなので、あまりお勧めしません。